



特集

絵本の館新館 20 周年「絵本の館のあゆみ」 絵本の里づくり活動編

9月号では絵本の里づくりに
ついてご紹介します

先月の広報8月号では、旧絵本の館ができるまでの出来事や絵本の里づくりの原点となってきたきっかけ、施設の概要を紹介しました。

9月号では、剣淵町とともに絵本の里づくりを行ってきた「けんぶち絵本の里を創ろう会（以下「創ろう会」）」のことや絵本の里づくりの活動から生まれたつながりなどを紹介していきます。

絵本との出会いをきっかけに始まった 「絵本の里づくり」そして創ろう会の結成

先月の広報でも紹介させていただいた絵本との出会い・出版社編集長との出会いから動き出した「絵本の里づくり」と創ろう会の結成。創ろう会は、原画展・講演会の開催や町内25か所への巡回文庫の設置などのほか、どのような活動を行ってきたのでしょうか。

〇絵本をキーワードにまちづくり

「活動の主体は住民によるもの」

創ろう会は、スポット的なイベントとして原画展や講演会を開催してきましたが、まちづくりを考えた時に定期的に開催されるイベントが必要なきに気づきました。

「お金は出すが、口は出さない」行政の財政的な支援が決まり、活動拠点もでき、会員全員が議論を重ね創設したのが、来館者が投票で選ぶ絵本のコンクール「けんぶち絵本の里大賞」です。

平成3年から始まった「けんぶち絵本の里大賞」は、今年で34回目を迎えました。第1回目は142作品の応募でしたが、今回は263作品の応募があり、多くの絵本作家や絵本出版社に知られています。

〇出版社訪問

平成元年から東京都内の出版社に直接出向き、絵本の里大賞への作品応募依頼や絵本の里としてのPRを毎年実施しています。

〇エホンキャラバン179

移動図書館車（キャラバンカー）を活用し、北海道179市町村を巡回する取組を令和3年度から実施しています。

この取組は、道内の子どもたちに笑顔や夢、希望を届け、絵本の里けんぶちをPRすることを目的に行っています。

令和5年度までに約20市町村を訪問し、訪問先では、「キャラバンカーが来てくれて良かった」「楽しかった」と大変好評な取組です。



▲エホンキャラバンに訪れた子どもたち

剣淵町が主体で行う絵本の里づくり

これまで行ってきた絵本の里づくりは、創ろう会だけではなく、町も関わっています。町では、次のことに取り組み、創ろう会と一緒に絵本の里づくりを進めています。

○絵本・読書普及事業

保育所、学校、学童保育所などに絵本の巡回文庫を設置し、絵本に触れてもらえるような取組を行っています。

ほかにも学校図書室支援として、絵本の館から図書館司書を派遣、職業体験学習の受入れ、令和6年度からは、読書記録通帳（愛称…やかたつうちよう）を発行しています。

○ブックスタート事業

ブックスタートとは、赤ちゃんとその保護者に絵本を開く楽しい体験と一緒に、絵本を手渡し、心触れ合うひと時を持つきっかけを作る活動です。

平成23年から関係団体と子育て支援に関する部署が連携し、「君の椅子贈呈事業」に合わせ実施しています。

○「ぶっちなブック」こども絵本プレゼント事業

平成27年度からは、生まれてから小学校入学前までのこどもに毎年1冊の絵本をプレゼントしています。



▲絵本プレゼントの様子

絵本の里づくりを行ってきたからこそ生まれた多くのつながり

これまで、創ろう会と剣淵町が一緒になって取り組んできた「絵本の里づくり」は様々なことがありましたが、続けてきたからこそ生まれたつながりがあります。

○福祉へのつながり

剣淵町西原地区では、社会福祉法人「剣淵北斗会」により、昭和55年に「剣淵西原学園」、平成5年に「剣淵北の杜舎」が開設（両施設付近を「西原の里」と呼ぶ）され、福祉のまちづくりが整えられてきました。

絵本の里づくりが始まった当初は、「西原の里」が活動の重要な推進役となり、福祉ネットワークを通じて全国の絵本作家や作家とのつながりから「絵本の里福祉フォーラム」を開催し、「福祉と絵本」から絵本の持つ特性「人への優しさ」にあった絵本の里づくりの方向性が見出されてきました。

ほかにも様々な福祉との連携事業が行われています。

○農業へのつながり

絵本の里らしい自然や人に優しい農業を実践し、安全な農産物を消費者に届けようと、平成2年に農業者が無農薬・低農薬（有機栽培）の生産団体「剣淵・生命を育てる大地の会」を結成し、全国の農業者や消費者との交流を深めています。

○絵本の里らしい景観づくりへのつながり

剣淵町には、絵本作家が描いた壁画の施設（保育所、小学校、B&G艇庫等）が多くあり、絵本の里らしい街並み景観やデザインが多く

あります。

○映画「じんじん」へのつながり

平成24年5月、絵本の魅力とこどもたちを引きつける絵本の力に圧倒され、「絵本の里づくり」に感動した俳優の大地康雄氏が剣淵町を舞台とした映画「じんじん」を企画し、メインロケ地として映画が製作されました。

この映画はスローシネマとして、全国各地で上映会が行われてきました。

また、海外で高く評価され、第13回イマジンインディア国際映画祭マドリッドにおいて、大地康雄氏が最優秀男優賞を受賞しました。

実際に映画「じんじん」を見た方からは、「絵本でつながる親子の絆をテーマにした映画でとても感動した」など多くの素晴らしい感想をいただいています。

▲あがき

2号にわたって絵本の館特集いかがでしたでしょうか。8月号では、絵本の館の歴史やまちづくりの原点、9月号では、けんぶち絵本の里を創ろう会や剣淵町が行ってきた絵本の里づくりに着目し、紹介しました。

この記事を作成するにあたって、当時の方々が「この剣淵町へ多くの人を呼び込みたい」とまちづくりへの熱意や意見のぶつかりなどを経て、今の「絵本の里づくり」があることを学びました。

剣淵町、そして絵本の里づくりがこれから先も未来へ受け継がれるよう願っています。